

## 平成21年リーグ戦の記録方法について

記録部

### 1. 公式判定の方法

H16からヒットかエラーかの判定は、バックネット裏の控え審判による判定制度を採用して来ました。今年の判定も、昨年同様ネット裏の控え審判が赤白の旗をあげる方法で行います。(リーグ戦のみ)

白旗：ヒット 赤旗：エラー

### 2. 専用のスコア記録用紙の使用(記入例は別紙のとおり)

自チーム分スコアは、昨年同様江戸川連盟で作成している2枚複写のものを使用し、1枚を提出してください。また、相手チーム分は、市販スコアブックに記入してください。

自チーム分スコアは、江戸川連盟で作成している2枚複写のものに直接記入してください。

(市販スコアブックから転記することによる、転記ミスなどを防止するため)

### 3. 相手チームの守備面で目立った選手のスコア用紙へ記載(H20年より新規採用)

目的：ゴールングラブ賞の守備面での参考データとして集計します。

相手チームの守備面で目立った選手を自チームの監督と協議し決定する。特に人数は決めないが1~3名程度が望ましい。

**ファインプレーだけでなく凡プレーなどマイナ面の選手も評価の対象とする。(H21年度新規採用)**

提出する2枚複写のスコアに守備面で目立った選手の名前・背番号・コメント(理由)を余白に記入する。

### リーグ戦におけるスコア記入及び処理の手順について【参考】

試合前にメンバー表(3枚複写)を作成する。

規定の受付時間までにU面バックネット裏の当日の担当(各チーム代表、運営部が順番で勤める)へメンバー表を持参し、選手のチェックを受ける。

試合開始整列前、メンバー表の1枚を手元に残し、キャプテンにその他2枚を渡す。

試合の経過、成績は、自チーム分を江戸川連盟専用の2枚複写のスコアブックに、相手チーム分を市販のスコアブックに記録する。(主審のプレイボールのコールが試合開始時間です。)

バックネット裏の控え審判は、選手の打撃についてヒットに白旗、エラーに赤旗を揚げる。

試合終了後、直ちに両チームの選手の打撃成績(打席数 打数 安打数、犠打・四死球、ホームラン数)をスコアブック右側に記入する。

「相手チームの守備面で目立った選手のスコア用紙へ記載」を行う。

その後、自チーム2枚複写のスコアブックを持ってバックネット裏に行き、審判の欄に主審のサインをもらう。

相手チームスコアラーに声をかけ、スコアブックにより両チームの選手の打撃成績と上記3の「相手チームの守備面で目立った選手のスコア用紙へ記載」を確認する。

確認後、相手チームの2枚複写のスコアブックに必ずサインをする。

サインの終わった自チームの2枚複写スコアブックの1枚を記録部・小池へ提出する。

小池が不在のときは、U面バックネット裏の連盟関係者にお渡しください。

受け取った連盟関係者はバックの専用ケースに入れてください。後日小池が回収します

全試合終了後、各チームスコアラーに打撃、守備や投手成績の確認をし、打撃ベスト10などのデータを作成します。その成績をもとに、後日連盟の選考委員会が開かれます。

### リーグ戦以外の公式戦、地区外大会、派遣試合の記録方法について

試合終了後、得点経過、試合経過概要を記録用紙に記入する。

記録用紙を記録部小池へ提出する。

記録は、広報部・ナイスキャッチへの掲載を依頼しますので、早めに提出お願いします。

提出は、FAX:3636-8535 やメール:hqe02724@nifty.ne.jpでも結構です。

記録紙・資料は<http://homepage2.nifty.com/hvs/kiroku.mht>でも確認できます。